

## ① 種の概要

### <形態>

- ・葉は羽状複葉で小葉は3～5枚。
- ・葉柄は長く、これによって他物に巻きつく。
- ・花びらのように見える萼片はふつう8個とされるが、枚数には変異がある。
- ・茎は褐紫色で木質化する。

### <生態、生育環境>

- ・冬季に落葉するつる性多年生植物。
- ・花期は5～6月、今年の枝の先に1個つき、上向きに開花する。
- ・果実は瘦果で、頭状に多数が集まってつき、花期が過ぎても残る花柱は褐色の短い毛がある。
- ・林縁から日の当たる湿地にも生育する。また、蛇紋岩や石灰岩地帯にも生える。



「いしかわレッドデータブック2020」より

### <生育状況>

- ・石川県では、絶滅したと考えられていたが、平成30年（2018年）に再発見された。
- ・現在確認されている生育地は加賀地域に2箇所（金沢市、能美市）。
- ・愛好家による採集が危惧される。

### <その他>

- ・規制の対象からは栽培している個体は除かれるため、過去に自生地から採集するなどして現在栽培している個体については規制の対象外となる。

## ② 指定理由

### <希少野生動植物種選定基準との適合>

- ・定性的要件1・・・既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。
- ・定量的要件4・・・成熟個体数が50未満であると推定される個体群である場合。

### <人為的な採集圧の抑制>

- ・道路などから見える生育地では、特に採集される危険性が高い。
- ・生育地および個体数が著しく少ない本種においては、園芸愛好家による採集圧が大きな危険要因となるため、指定により採集圧を抑制する。

## ③ 指定後の対策

### <モニタリングの実施>

- ・希少種保全推進員による継続的なモニタリングを行い生育状況を把握していく。

### <関係市町との調整>

- ・管理のため行われている草刈りについては、カザグルマに負の影響を与えないように関係市町と調整していく。  
※植生遷移による日照不足を防ぐため、適切な管理が必要。